

コルネリウス

2022年8月14日

使徒の働き 10章1～23a節

序：ノア ハム エチオピアの宦官
 セム サウロ（パウロ）
 ヤペテ コルネリウス

福音（イエス・キリストの救いの道）＝十字架上の死　＋　葬り　＋　体ごとの復活

エルサレム	ユダヤとサマリアの全土	地の果て (当時はローマ帝国)
ユダヤ人中心	ユダヤ人・異邦人	多くの異邦人
	ピリポ (サマリア) カイサリアへ	

神の究極の目的は教会
(ユダヤ人信者＋異邦人信者)
キリストの花嫁

I. コルネリウス

カイサリア在住 イスラエル駐屯のローマ軍の百人隊長
敬虔な人(割礼は受けていない、異邦人でユダヤ教に帰依、神を畏れ敬う)
家族とともに
ユダヤ人に多くのほどこし
絶えず、神への祈り

午後3時の祈り
幻のの中 御使いを見た
聞いた はっきりと
「コルネリウス」 (名指し)

見つめていた 恐れつつ、尋ねた
彼の祈り、施しは神がお認めになっている、受け入れられている

指示：人を遣わし、ヤッファにいるシモン（ペテロ）を招け
海辺の皮なめしのシモンの家に宿泊

理由・目的は告げられない

従う備えはできていた
しもべ2人、敬虔な側近の部下のひとり（計3人）をヤッフアへ派遣
十分な説明の後

II. ペテロ

保守的なユダヤ人キリスト者
ユダヤ人への宣教 ⇒ 異邦人にも範囲拡大

彼も祈り（12時）の中で幻を見る
空腹、昼食が提供されるのを待っていたとき
幻：雑多な動物、這うもの、鳥の入った大きな敷布のような入れ物が、
四隅をつるされて、天から地上に降りてきた

聞いた：「ペテロよ」（名指し）
指示：「屠って、食べよ」

抗弁：「主よ、できません」（矛盾）
律法が禁じている 先祖から今に至るまで、汚れた物を食べない
誘惑に陥ると思い恐れた

促し : 「神がきよめたものを、きよくないと言ってはならない」
マルコ 7・14～ 外から腹に入る物が人をけがすのではなく
19b イエスはどんな食物もきよいとされた

三回の押し問答の後、入れ物は引き上げられた

理由・目的：ペテロが異邦人の訪問を受け、彼らとともに出かけるために、必要な
備えをするため（異邦人は汚れている、係わらないという偏見を除く
古い教えに新しい意味をこめた神の業に従えるように

主はこれまでに、ペテロを徐々に備えられた

- ①サマリアの人々の回後、ヨハネとペテロを派遣（聖霊を受けるよう）
- ②先にカイサリアにピリポを行かせた 8・40
- ③リダ（アイネア）、ヤッファ（ドルカス）での巡回伝道
- ④ヤッファでは、皮なめし（汚れた職業とされていた）のシモン宅に滞在

Ⅲ. コルネリウスの使者たち

ペテロのいるシモンの家を捜し当てて、玄関にたったのは、神のタイミング
あの幻のことでペテロが思い感っていた矢先
御霊言う：三人の訪問者が来ている
彼らを迎え、ためらわずに彼らとともに行け

ペテロ：使者たちに自己紹介、要件を尋ねる

使者たち：正しい人、神を畏れ、ユダヤの民全体に評判のよい 百人隊長コルネリ
ウスから、遣わされた
意図はペテロをカイザリアの自宅に招き、ペテロから話を聞くこと
そう示したのは、聖なる御使い

ペテロ : 双方に働きかけ、導いたのは聖霊であると知らされる。
彼らを受け入れ、泊まらせて、翌日いっしょに出発する決意

Ⅳ. 適用

コルネリウスもペテロも聖霊によって、御旨を知らされた

それぞれ会う準備を導かれた

コルネリウスは、理由も目的も知らなかったが、主のことばを聞いて従った
ペテロは、新しい神のわざが始まっていることをすぐには受け入れられなかった
従来の価値観、解釈、行動様式では間に合わない時がある
そういう時は、自分や他の人より先に、神に聞き、聖霊の導きに従うこと
また、救い主であると同時に主であるイエス・キリストに聞き従う
マタイ 17・5

すると見よ、雲の中から「これはわたしの愛する子。わたしはこれを
喜ぶ。彼の言うことを聞け」という声がした。

三位一体の神（父、御子、御霊）が私たちの主、全知全能

ピリピ 4・13

私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。
（主の井ころならば）

ペテロが変えられ、備えられた後、福音宣教はユダヤ人、異邦人の隔ての壁を
破られ、さらに大きく広く前進することになった

私たちが悔い改めて変えられるなら、同じようになります